

協会けんぽ宮崎支部  
ジェネリック医薬品使用状況統計資料  
(2023年度)

---

2025年1月作成

# 目次

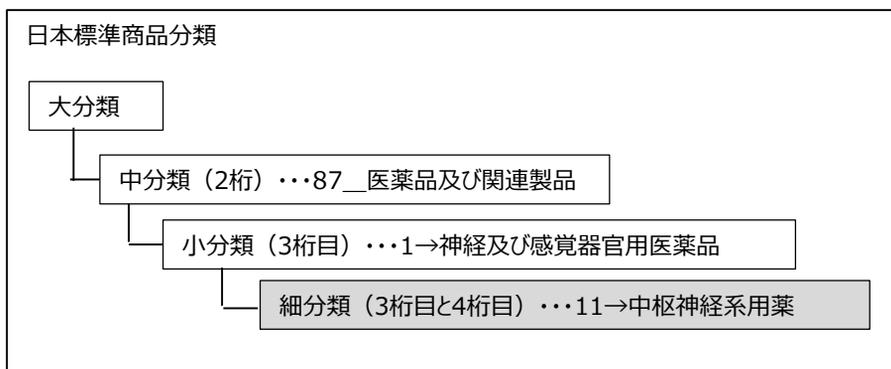
---

留意事項 .....	2
宮崎支部の使用割合 .....	3～4
薬効分類別の使用割合 .....	5～14
年齢階級別・薬効分類別の使用割合 .....	15～20

# 留意事項

## ● 集計に使用したデータと留意事項

1. 今回の集計には、「先発医薬品後発医薬品基本情報（旧：調剤基本情報）」（2023年度／2022年度）、および「医科・DPC・歯科・調剤に関する医薬品使用状況」（2024年3月診療分）を使用。なお、先発医薬品後発医薬品基本情報および医薬品使用状況は協会本部ホームページにも掲載されている。
2. 情報は原則として協会けんぽ（一般分）の医科、DPC、歯科、調剤レセプト（電子レセプトに限る）について集計したもの（算定ベース）である。
3. 「数量」とは、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量をいう。
4. 使用割合は、 $\frac{[\text{後発医薬品の数量}]}{([\text{後発医薬品のある先発医薬品の数量}] + [\text{後発医薬品の数量}])}$  で算出している。医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」による。
5. 後発医薬品の収載月後には、初めて収載される先発医薬品があると、算出式の分母の対象となる先発医薬品が増えることにより、後発医薬品割合が低くなることもある。
6. この資料の薬効分類名の前の数字は、「日本標準商品分類」の「中分類87-医薬品及び関連製品」に準拠した番号である（下図参照）。
7. この資料でいう使用数量は、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量で、「後発医薬品のある先発医薬品の数量」と「後発医薬品の数量」の合計であり、同一薬効分類の全ての薬剤を集計したものではない（後発医薬品のない先発医薬品の数量等は含まれない）。
8. 記載している使用割合や増減ポイント数は、四捨五入した値を前提に記載しているため、端数処理の影響で数値が一致しない場合がある。

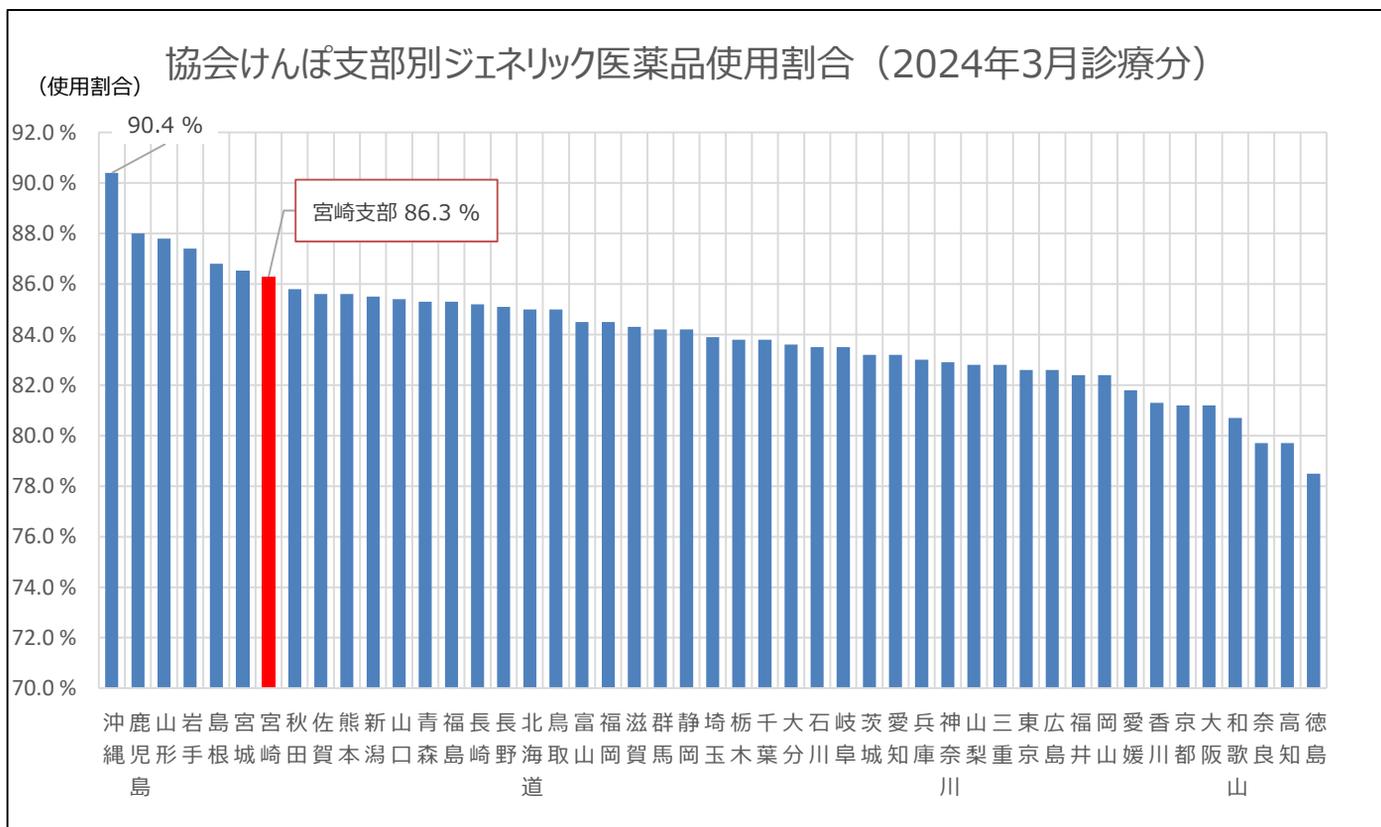


## 2023年度末時点（2024年3月診療分）の使用割合

医科・DPC・歯科・調剤 : 86.3%（前年同月比 +1.4%）

協会けんぽでは2018年12月診療分より医科・DPC・歯科・調剤レセプトの総合で使用割合を集計した結果を公表している。宮崎支部の使用割合は政府目標である80%を超える86.3%であり、支部間順位は7位、前年同月の順位は6位であり、順位は1つ下がった。

しかし、順位の近い宮城支部との使用割合の差はわずかであり、順位は月によって前後する状況である。



## 月別の使用割合（全国計と宮崎支部）

（3月診療分の前年度比較）

宮崎支部

医科・DPC・歯科・調剤 : 84.9% → 86.3% (+1.4ポイント)

※前年度は年間通じて+1.6ポイント増加。

全国計

医科・DPC・歯科・調剤 : 81.7% → 83.6% (+1.9ポイント)

※前年度は年間通じて+1.3ポイント増加。

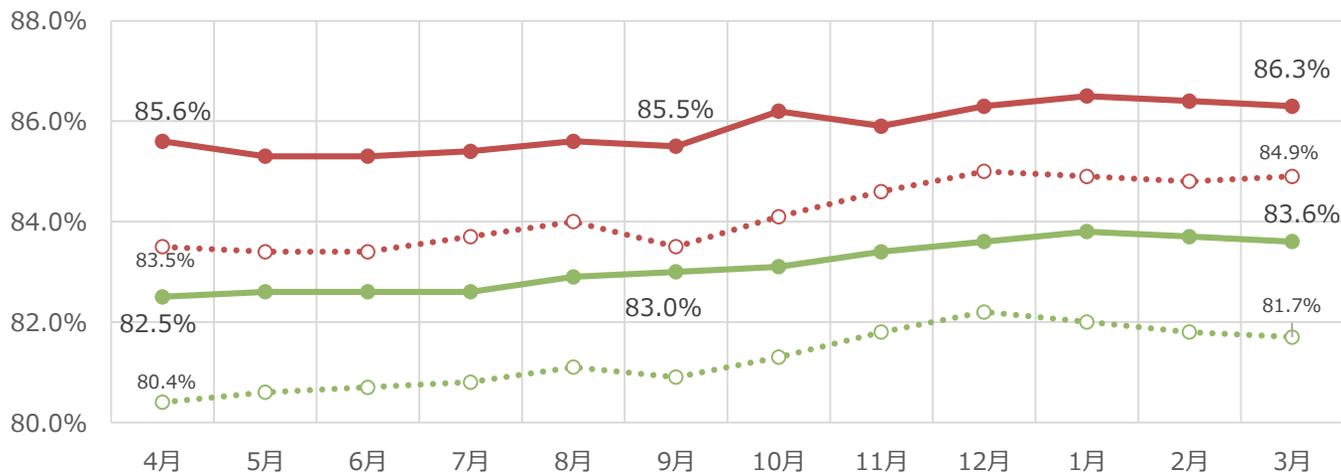
宮崎支部の使用割合は3月診療分の前年同月比で1.4ポイント増と全国平均1.9ポイント増を下回った。

ジェネリック医薬品の使用割合は年々伸びていたが、2021年度は宮崎支部では年間通じて+0.1ポイント増加、全国では年間通じて変化なしというように伸びは鈍化した。しかし、2022年度以降、宮崎支部の使用割合は緩やかに上昇しており、全国も同様の状況であった。

診療月別 ジェネリック医薬品使用割合推移（2023年度）

（使用割合）

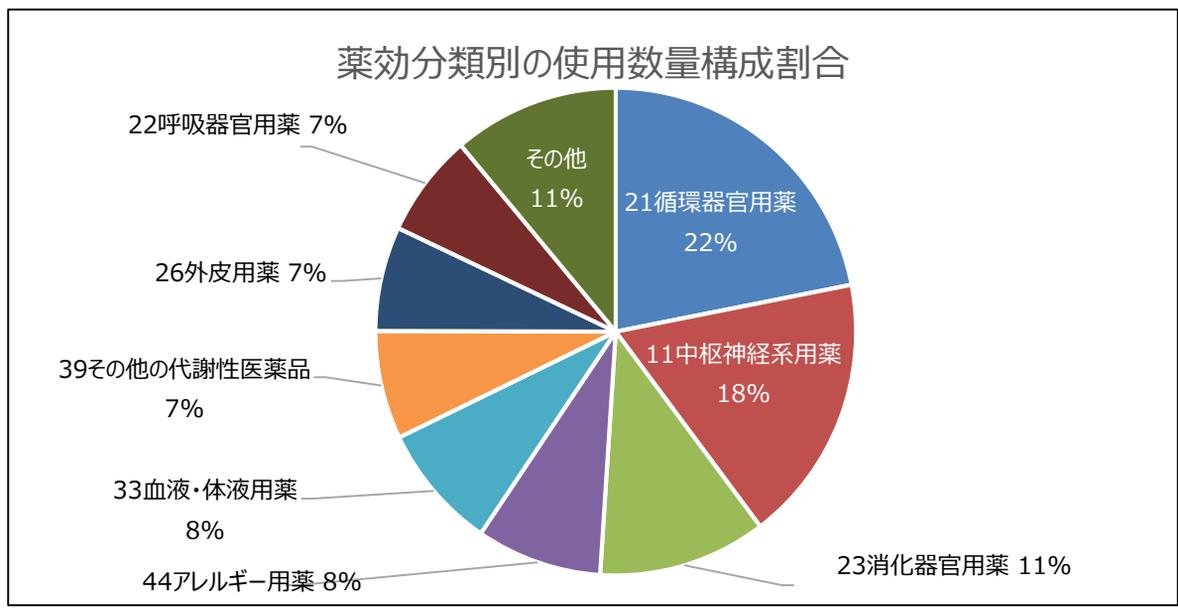
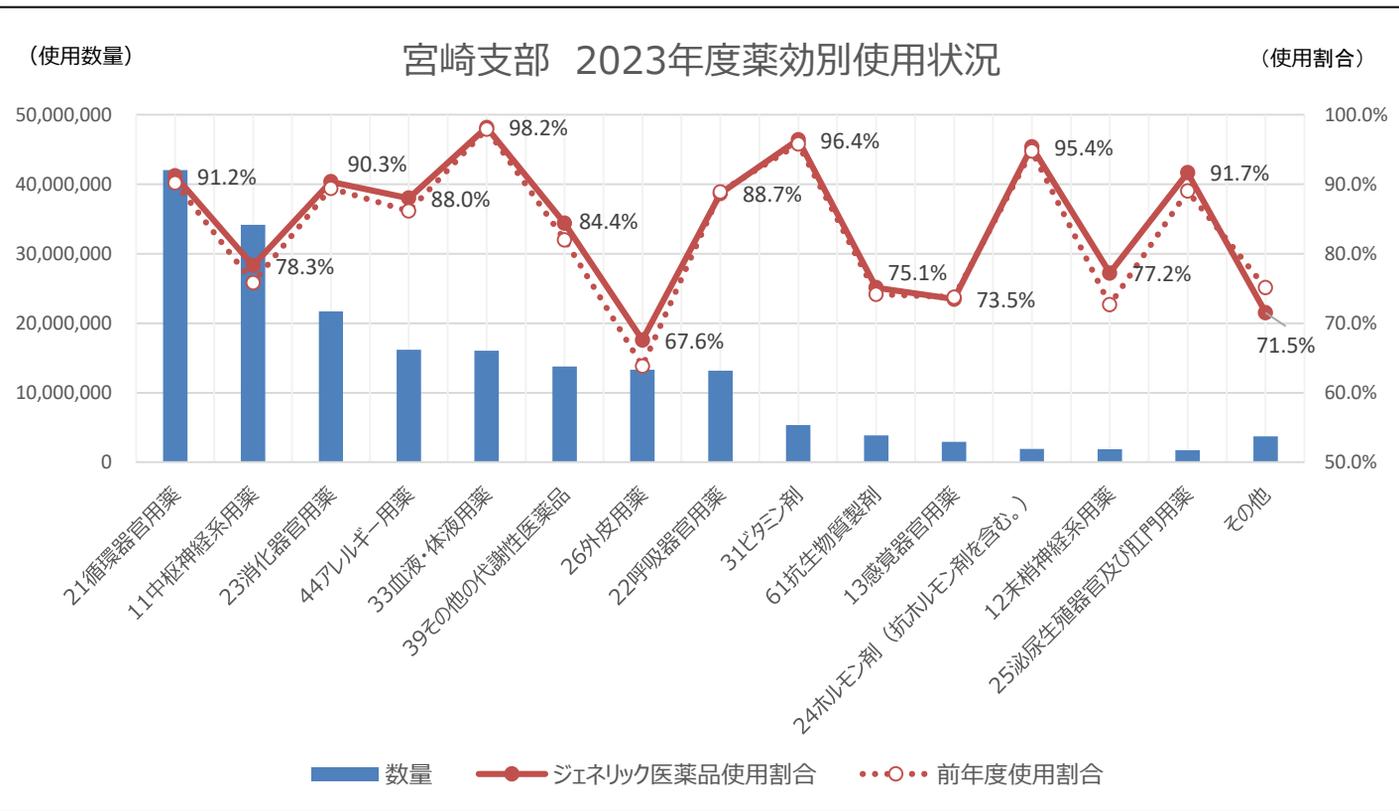
●●● 全国\_前年度    ●●● 宮崎\_前年度    ●●● 全国    ●●● 宮崎



# 薬効分類別の使用割合

使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

宮崎支部の薬効分類別の使用数量では、「21循環器官用薬」が最も多く、「11中枢神経系用薬」、「23消化器官用薬」、「44アレルギー用薬」、「33血液・体液用薬」、「39その他の代謝性医薬品」、「26外皮用薬」、「22呼吸器用薬」と続いている。例年、使用数量の多い薬効分類に変化はなく、使用数量の約9割を上記8つの薬効分類が占めることから、以降の分析は、この8つの薬効分類について記載を行う。

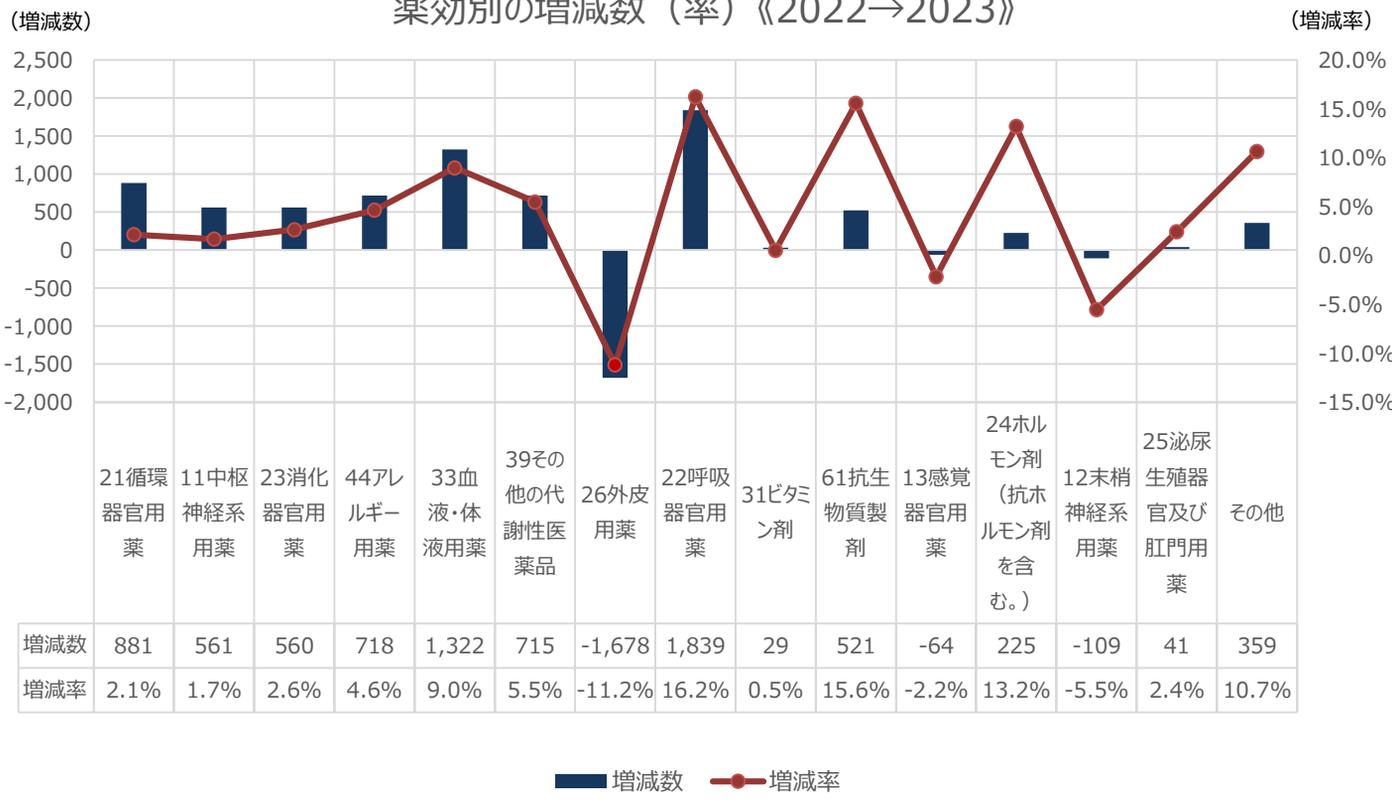


# 薬効分類別の使用割合

使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

薬剤の使用数量は、2021年度は前年度比+7.8%の増加であったが、2022年度では+1.2%と微増であり、2023年度は+3.2%の増加であった。

### 薬効別の増減数（率）《2022→2023》



※グラフの増加数は表示の都合上1,000単位で表示している。

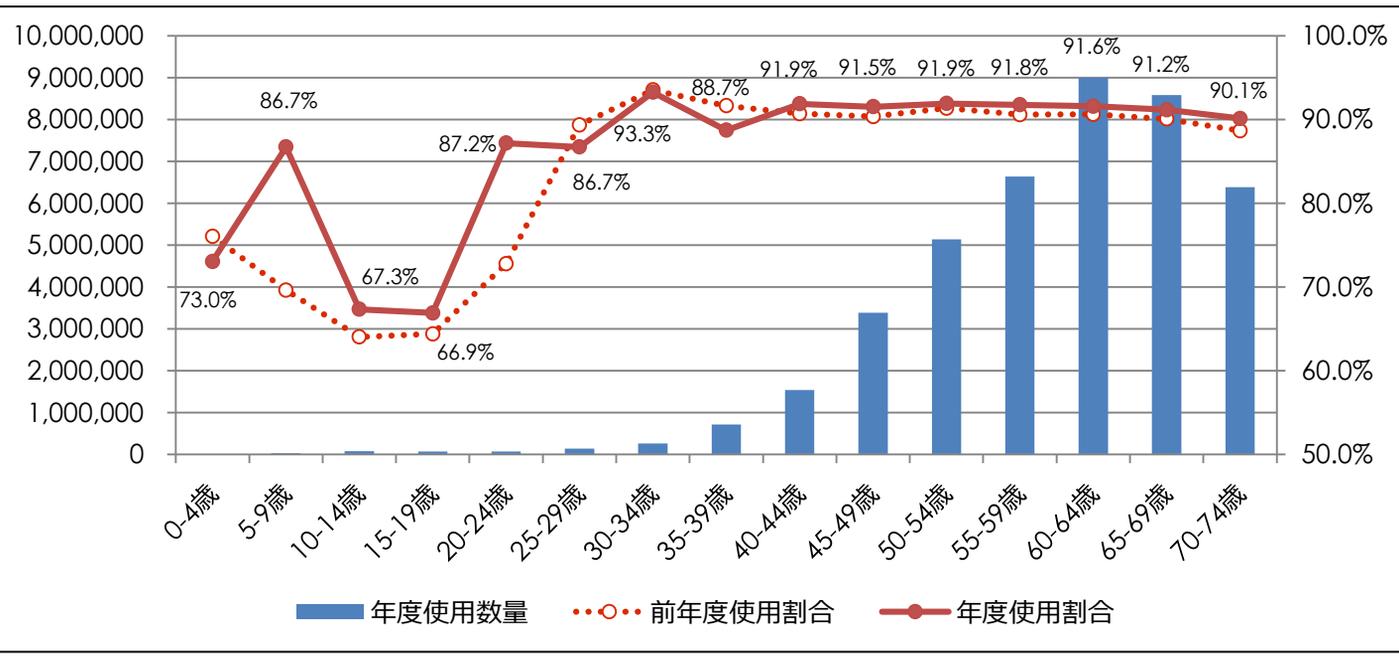
# 薬効分類別の使用割合

使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

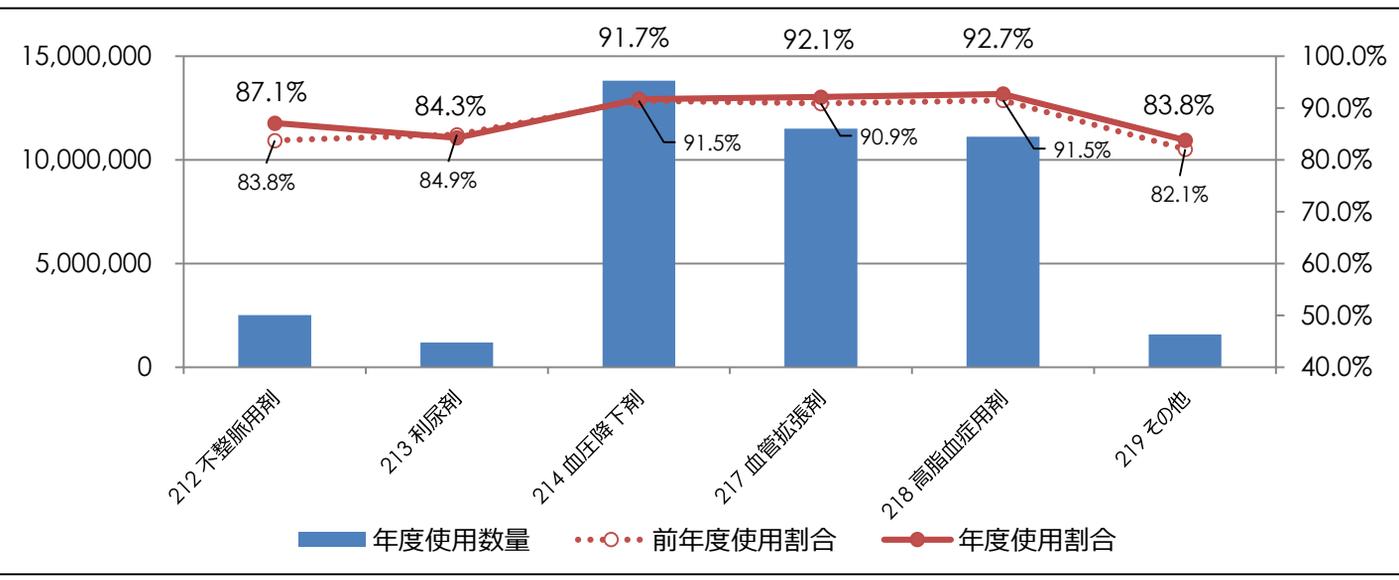
## 「21循環器官用薬」の使用数量と使用割合

「21循環器官用薬」の使用数量は、全薬効中最も多い薬効である。40歳以降使用数量が増加し、60～64歳の年齢階級が最も多い（65歳以上で減少するのは協会けんぽの加入者自体が減少するため）。

使用数量の多い高齢層で使用割合は僅かだが上昇しており、全体では+1.0ポイント上昇した。



「21循環器官用薬」の薬効小分類別では、「214 血圧降下剤」、「217 血管拡張剤」、「218 高脂血症用剤」の使用数量が多く、いずれも使用割合は前年度より上昇した。3薬効のうち最も使用割合が高いのは「218 高脂血症用剤」の92.7%であり、前年度より+1.2ポイント上昇した。



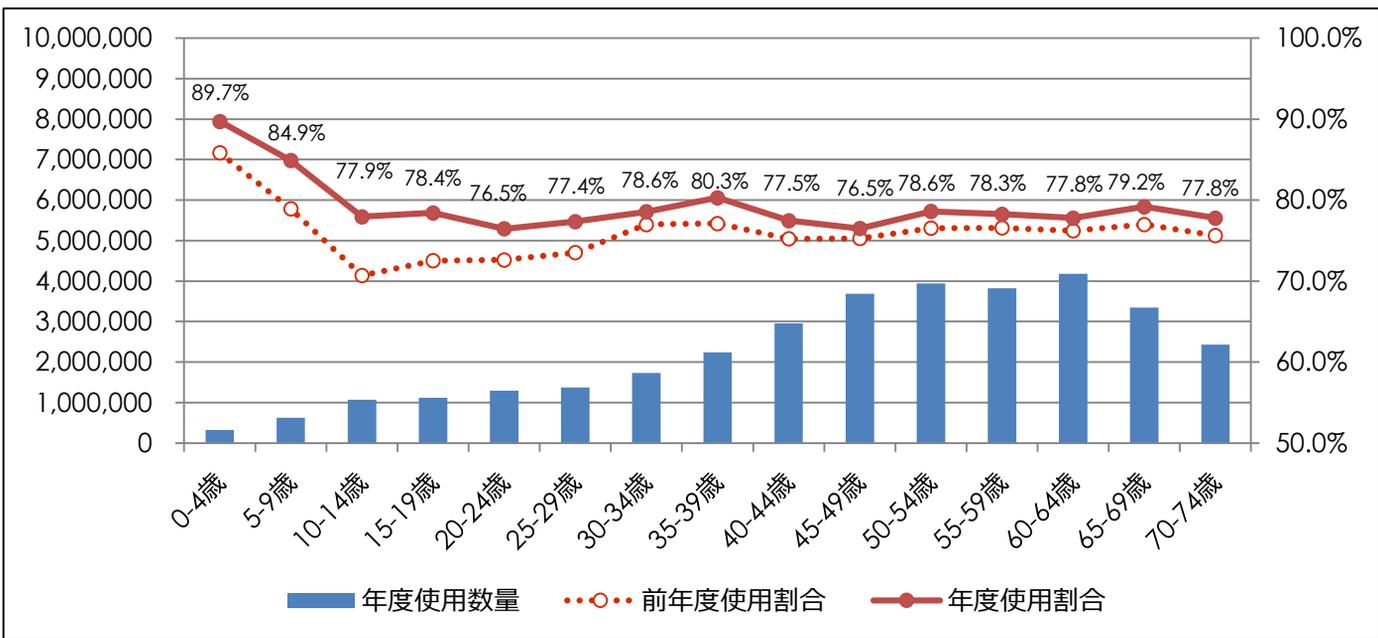
※薬効小分類別のグラフについては、数量の僅少な薬効は除外し、主要な薬効のみを記載している。以降も同様。

# 薬効分類別の使用割合

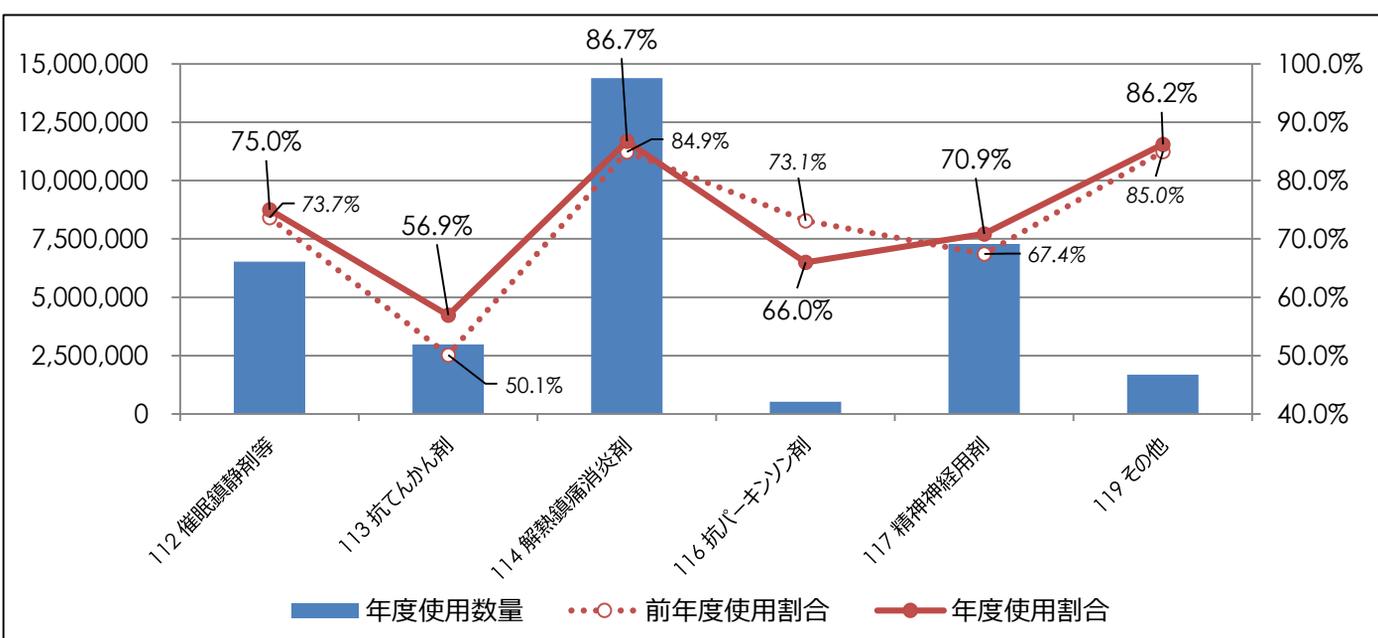
## 「11中枢神経系用薬」の使用数量と使用割合

使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

「11中枢神経系用薬」の使用数量は年齢階級が上がるともに徐々に増加するが、45歳以降からはそれほど上昇せず、なだらかなピークとなっている。使用割合は全ての年齢階級で前年度から上昇しており、特に低年齢の階層で使用割合が上昇した。全体の使用割合は+2.5ポイント上昇した。



「11中枢神経系用薬」の薬効分類別では、「114解熱鎮痛消炎剤」の使用数量が最も多く、次に、「117精神神経用剤」、「112催眠鎮静剤、抗不安剤」の順で多い。多くのカテゴリで前年度より使用割合は上回っていたが、使用数量が少ない「116抗パーキンソン剤」は-7.1ポイント減少した。



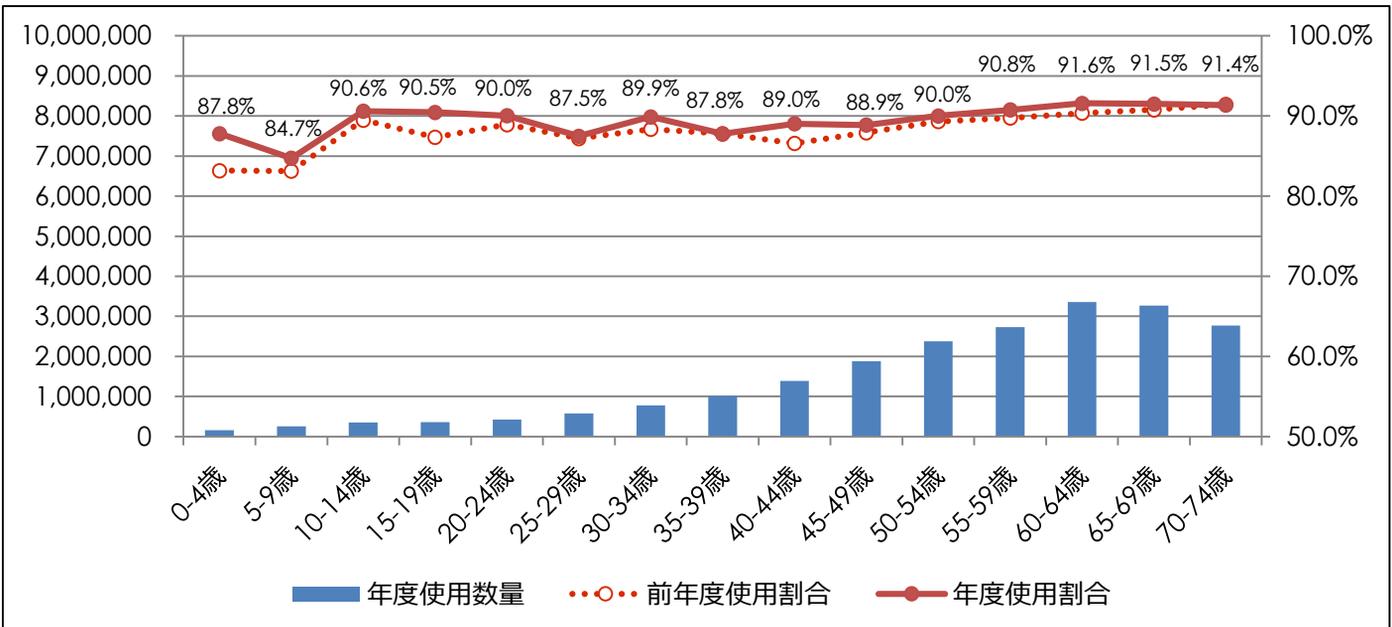
# 薬効分類別の使用割合

使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

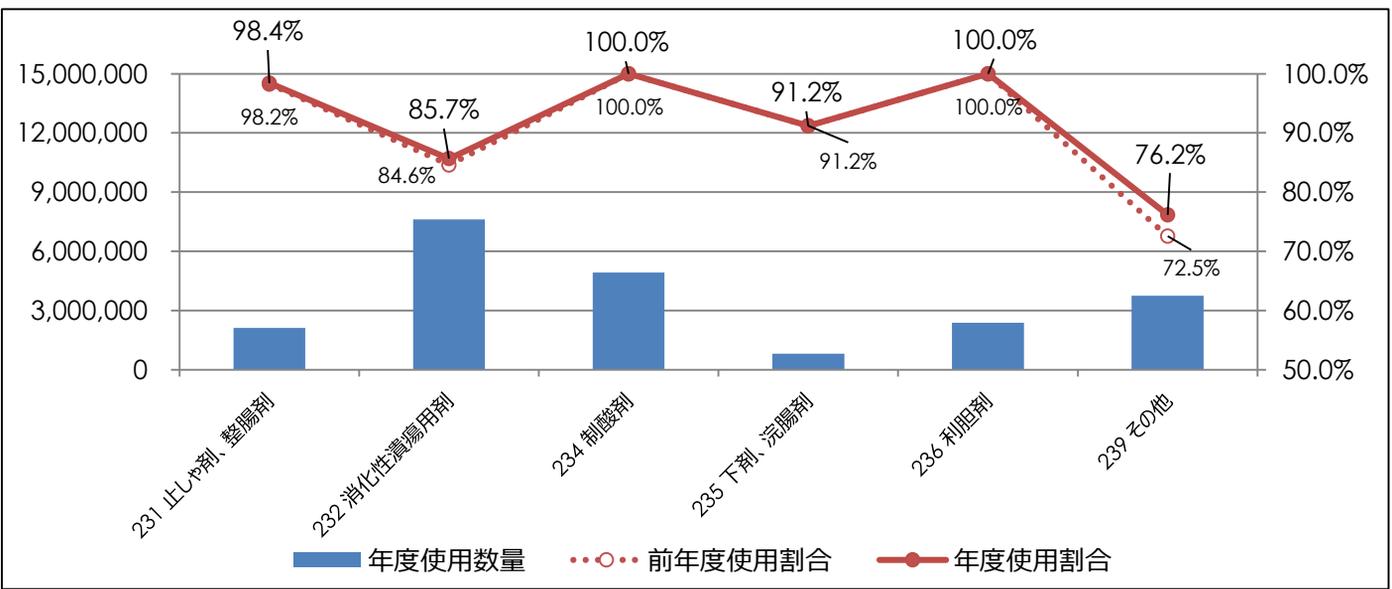
## 「23消化器官用薬」の使用数量と使用割合

「23消化器官用薬」の使用数量は、年齢階級が上がるとともに徐々に増加し、60～64歳の年齢階級が最も多い。使用割合は年齢階級間の差は小さく、すべての年齢階級で80%以上となっていた。全体の使用割合は90.3%で、前年度から+0.9ポイント上昇した。

年齢階級別に見ると、35～39歳と70～74歳を除く年齢階級の使用割合は前年度から上昇し、最も使用数量の多い60～64歳の年齢階級では+1.2ポイント上昇した。



「23消化器官用薬」の薬効分類別では、使用数量の最も多い「232消化性潰瘍用剤」の使用割合は+1.1ポイント上昇した。

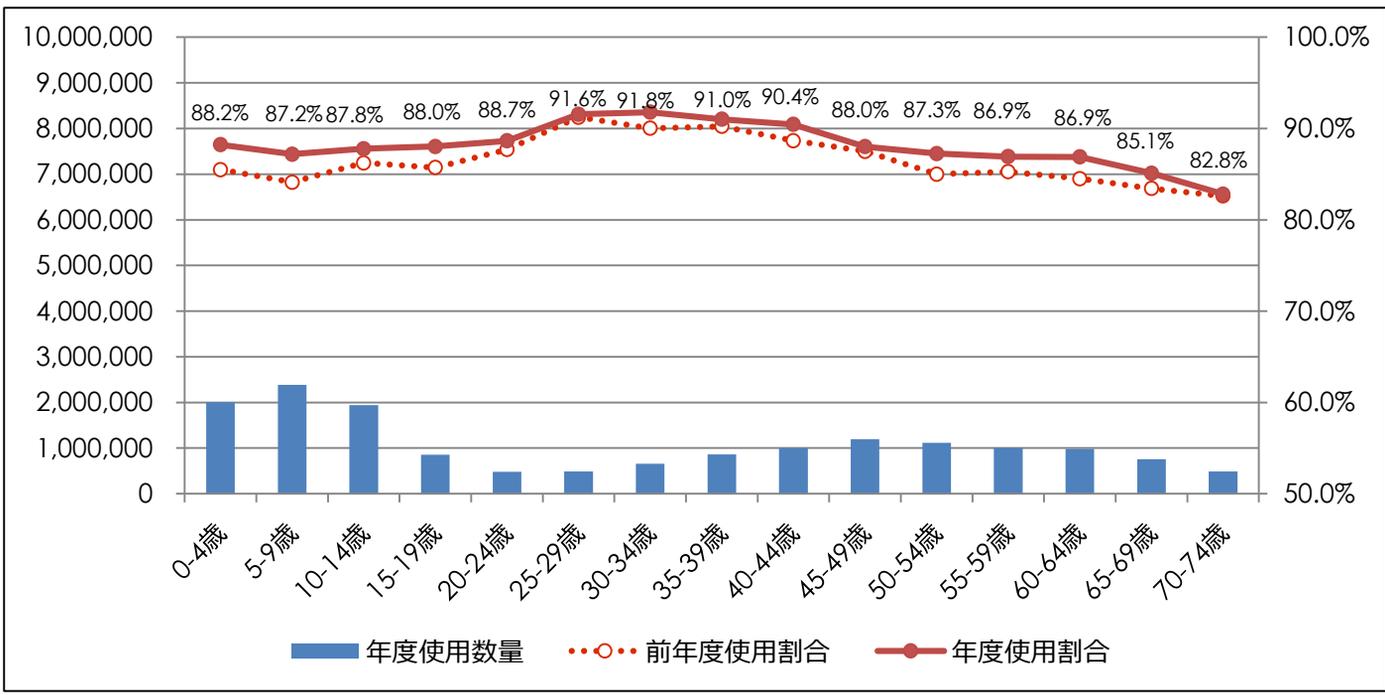


# 薬効分類別の使用割合

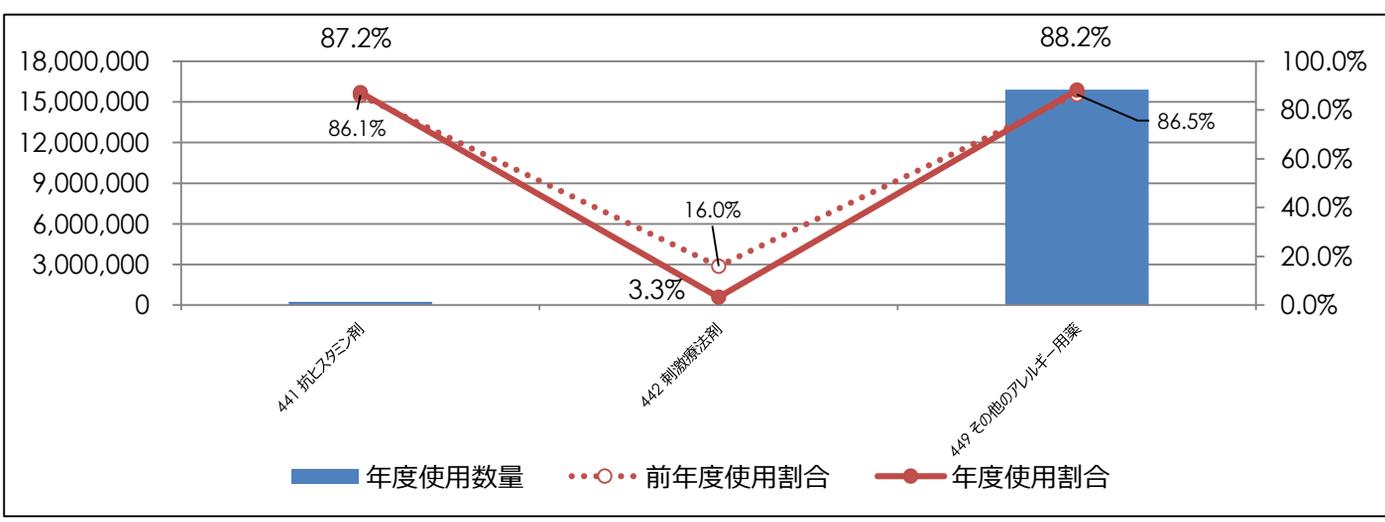
使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

## 「44アレルギー用薬」の使用数量と使用割合

「44アレルギー用薬」の使用数量は、0～14歳の年齢階級で多く、次いで40歳以上が多い二峰性に近い特徴を持つ。全体的にどの年齢階層でも使用割合が上昇しており、特に使用数量の多い低年齢の階層で上昇が見られた。全体の使用割合は+1.9ポイント上昇した。低年齢階層の上昇が進み、高齢層の使用割合の方が相対的に低くなった。



「44アレルギー用薬」の薬効分類別では、「449その他のアレルギー用薬」がほとんど（約98%）を占めており、前年度から+1.7ポイント上昇した。またカテゴリ内で0.2%を占める「442刺激療法剤」は、-12.6ポイントと減少し、3.3%に下がった。

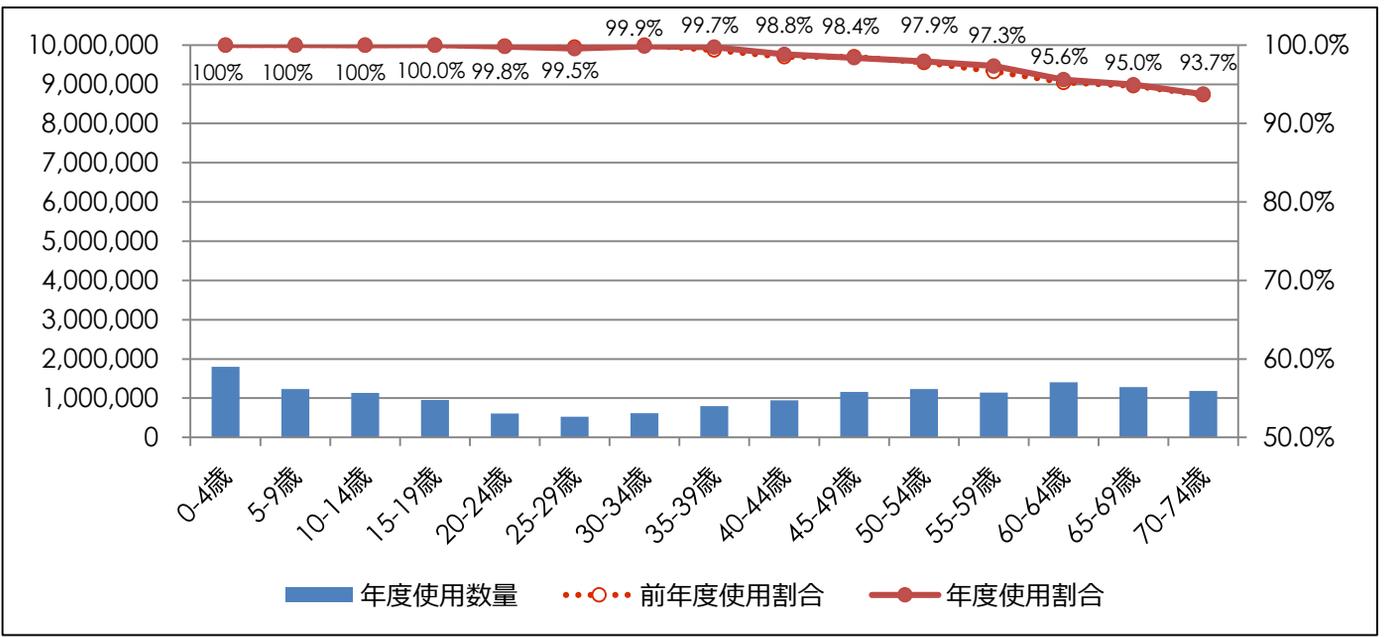


# 薬効分類別の使用割合

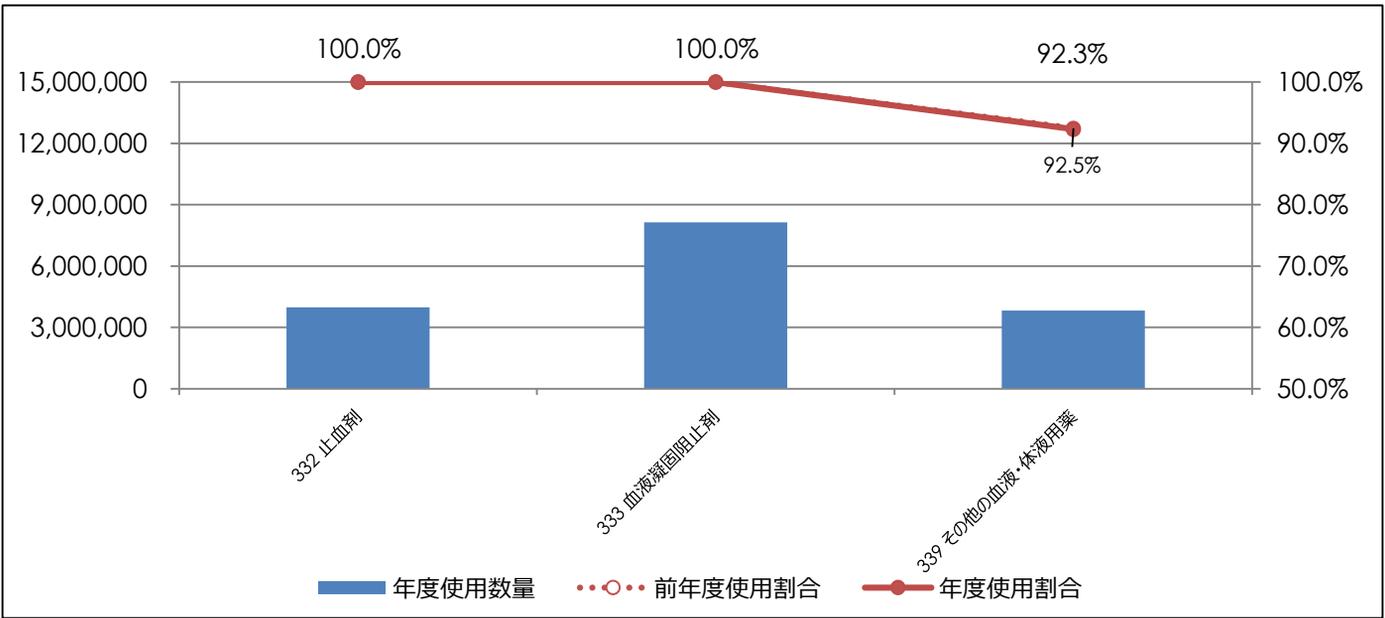
使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

## 「33血液・体液用薬」の使用数量と使用割合

「33血液・体液用薬」の使用数量は、二峰性の特徴を持つ。若年層に関しては、ヒルドイドなどの主要医薬品が全て後発品として区分されるため、基本的に使用割合がほぼ100%となるが、高齢層で使用される高脂血症や末梢動脈疾患用の医薬品も後発品使用が増加しており、全体の使用割合は98.2%で、前年度から+0.2ポイント上昇した。



「33血液・体液用薬」カテゴリ全体の使用割合は、主要な「332止血剤」、「333血液凝固阻止剤」の使用割合が100%となるため、「339その他の血液・体液用薬」の使用割合が影響する。「339その他の血液・体液用薬」は前年度から-0.2ポイント減少した。



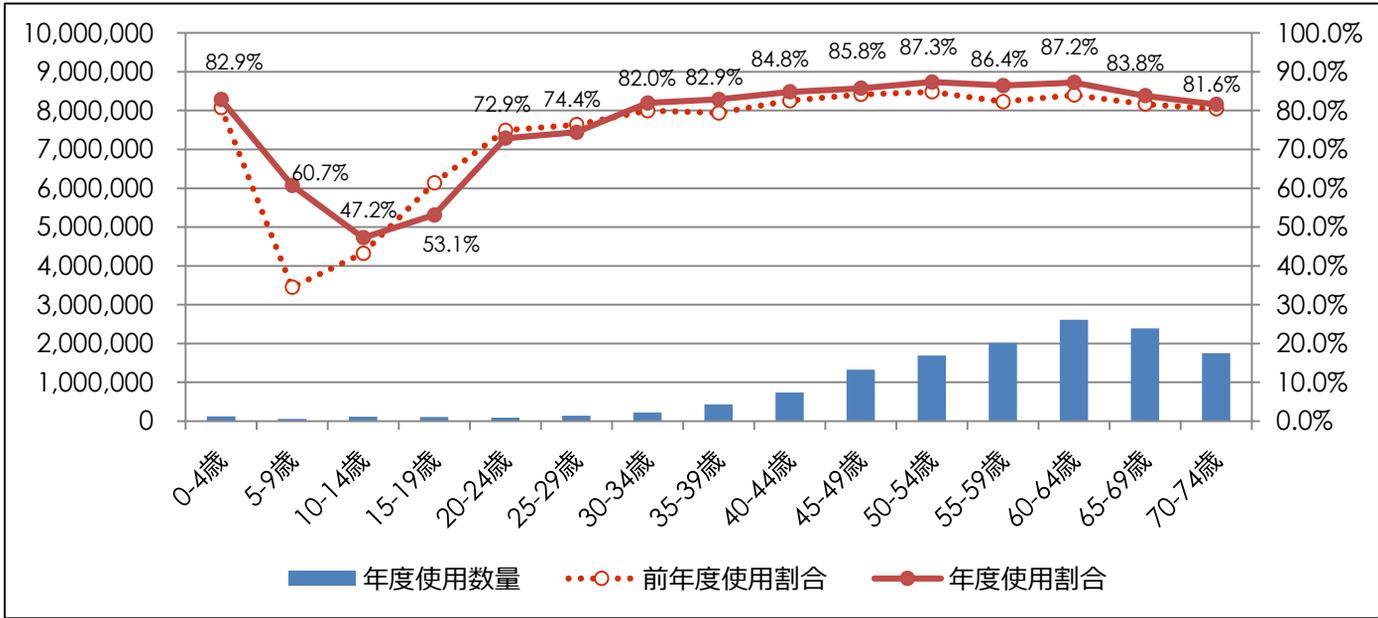
# 薬効分類別の使用割合

使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

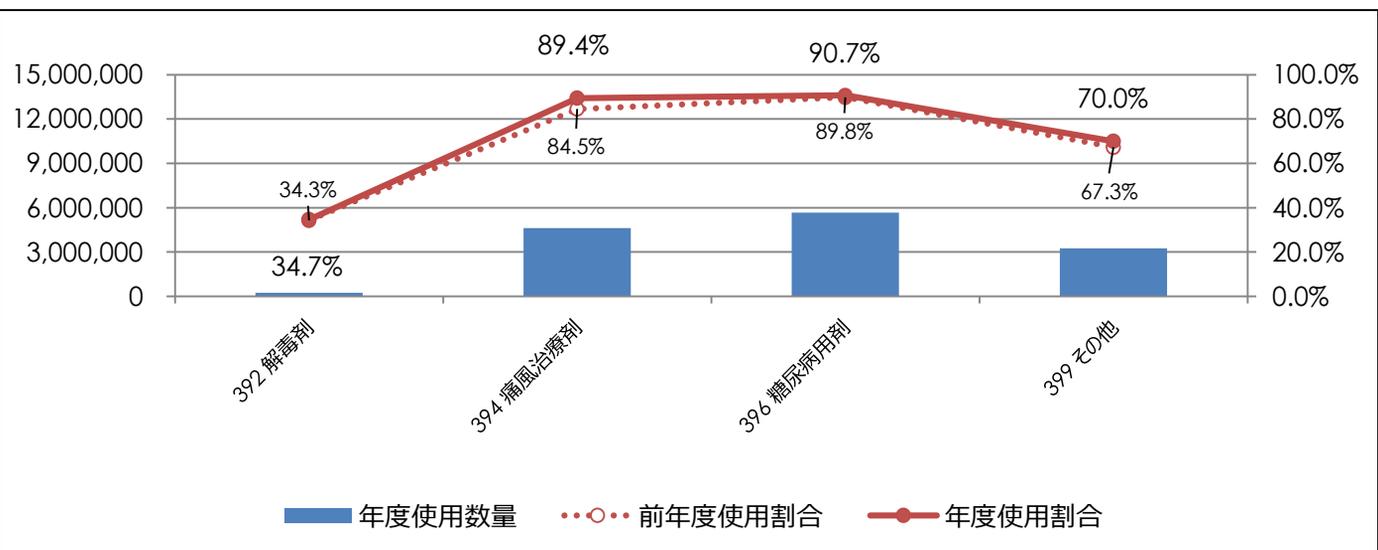
## 「39その他の代謝性医薬品」の使用数量と使用割合

「39その他の代謝性医薬品」は年齢が高くなるにつれ使用数量が増加していく薬効である。高齢層で使用割合は上昇し、全体では+2.4ポイント上昇したが、0～19歳の年齢階級では使用割合が年度ごとに大きく変動している状況が続いている。

10～14歳の年齢階層で2020年度に10.8%だった使用割合が47.2%まで上昇し、5～9歳の年齢階層の使用割合は60.7%と前年度より+26.2ポイント上昇した。



「39その他の代謝性医薬品」の薬効分類別では、使用数量の少ない「392解毒剤」を除き、前年度から使用割合は上昇した。使用割合が最も上昇したのは「394痛風治療剤」であり、前年度から+4.9ポイント上昇した。

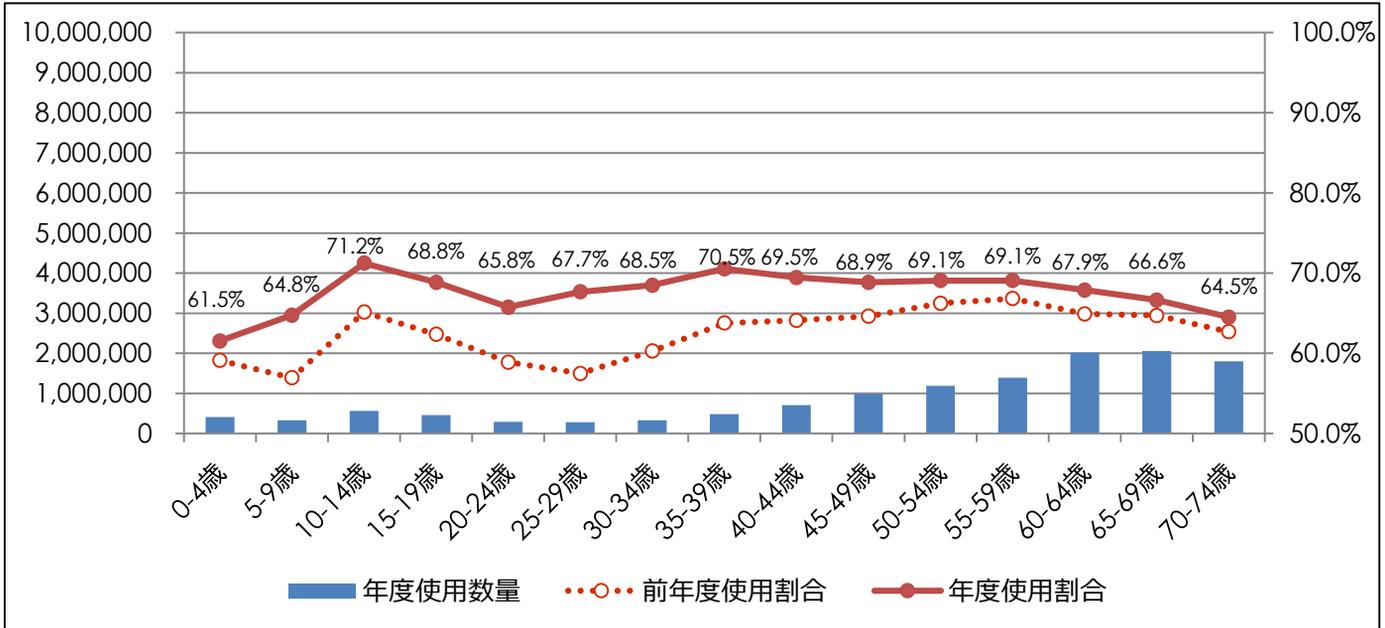


# 薬効分類別の使用割合

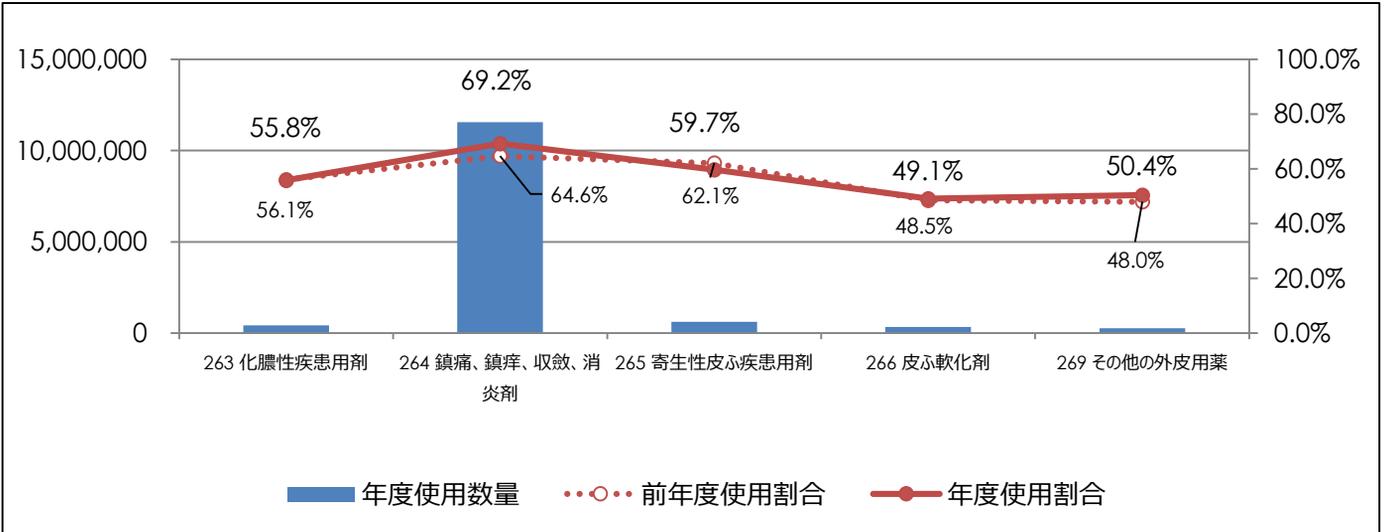
使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

## 「26外皮用薬」の使用数量と使用割合

「26外皮用薬」の使用数量は、全年齢で一定の使用数量が見られ、60歳を超えると使用数量がさらに増加する。主要薬効の中で最も使用割合の低い薬効だが、2023年度は主要薬効の中で使用割合が最も高い+3.7ポイント上昇し、2022年度と同様に上昇が続いている（2022年度は前年度比+3.4ポイント上昇）。特に低年齢の階層で使用割合は上昇し、25歳～29歳の年齢階級では、前年度より+10.2ポイント上昇した。



「26外皮用薬」の薬効分類別では、「264鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤」の使用数量がほとんど（約87%）を占めている。使用割合は同一薬効の中では69.2%と最も高く、前年度から+4.5ポイント上昇した。

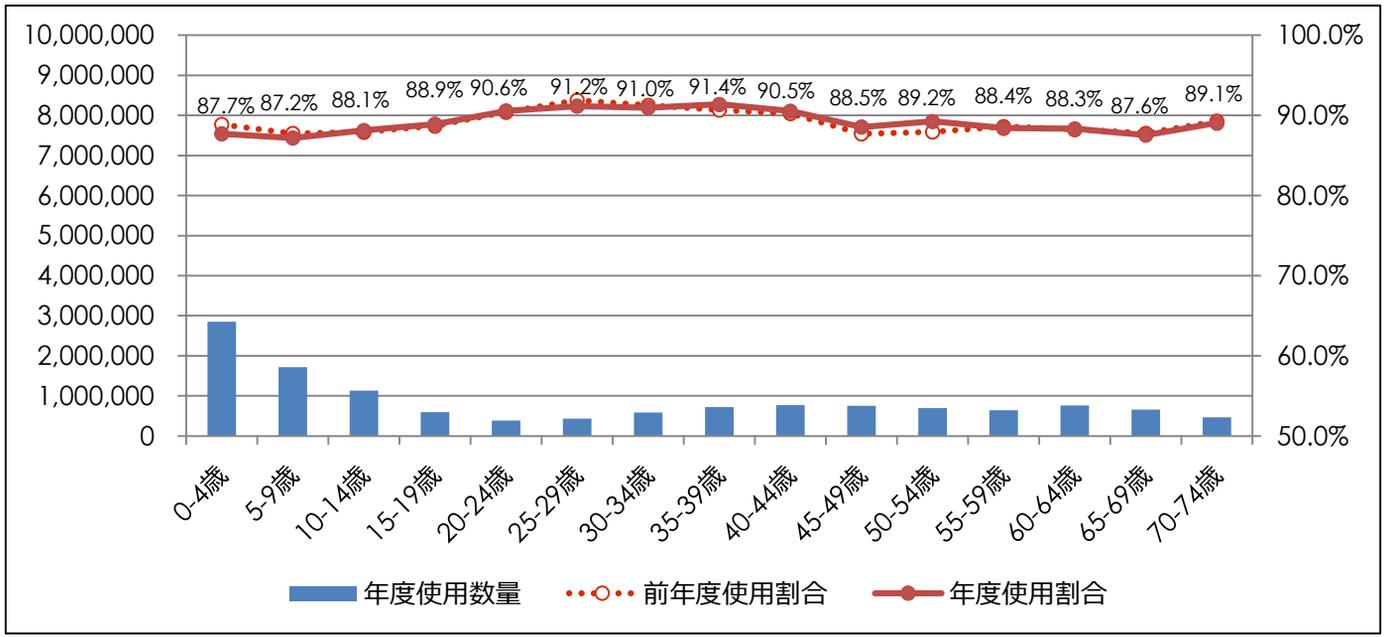


# 薬効分類別の使用割合

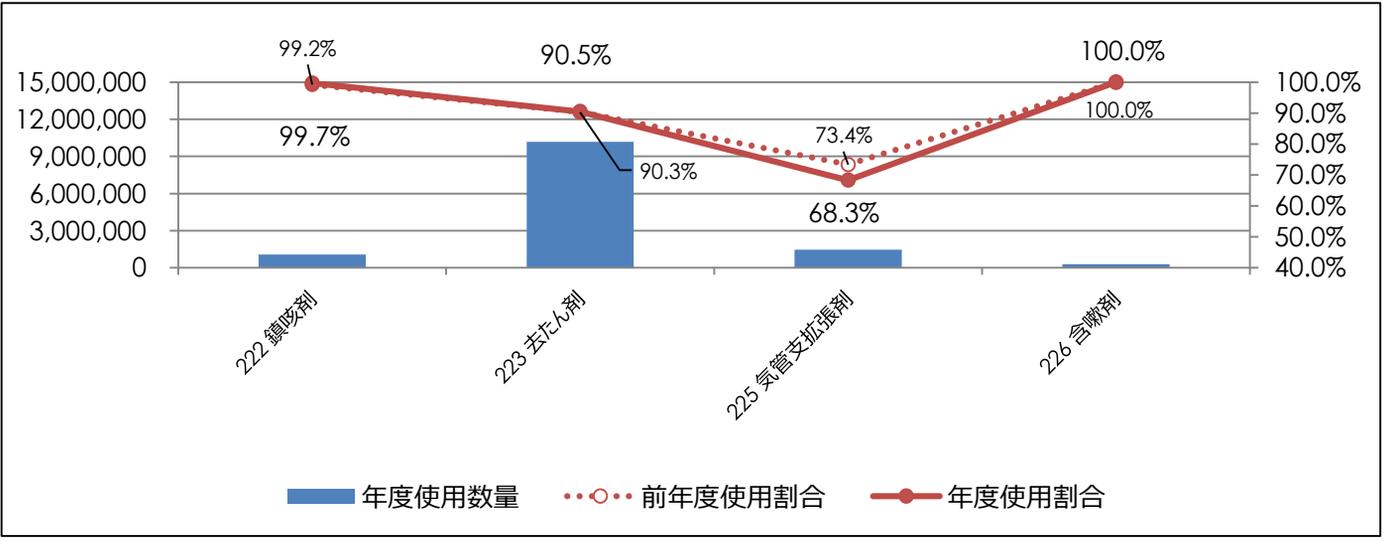
使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

## 「22呼吸器用薬」の使用数量と使用割合

「22呼吸器用薬」の使用数量は、低年齢層の使用数量が多く、それ以外の年齢階層では一定の使用数量となる。使用割合は一部の年齢階級では若干減少し、全体の使用割合は-0.2ポイント減少した。  
 使用数量は、全年齢階級において増加し、全体では前年度比+16.2ポイント増加した。



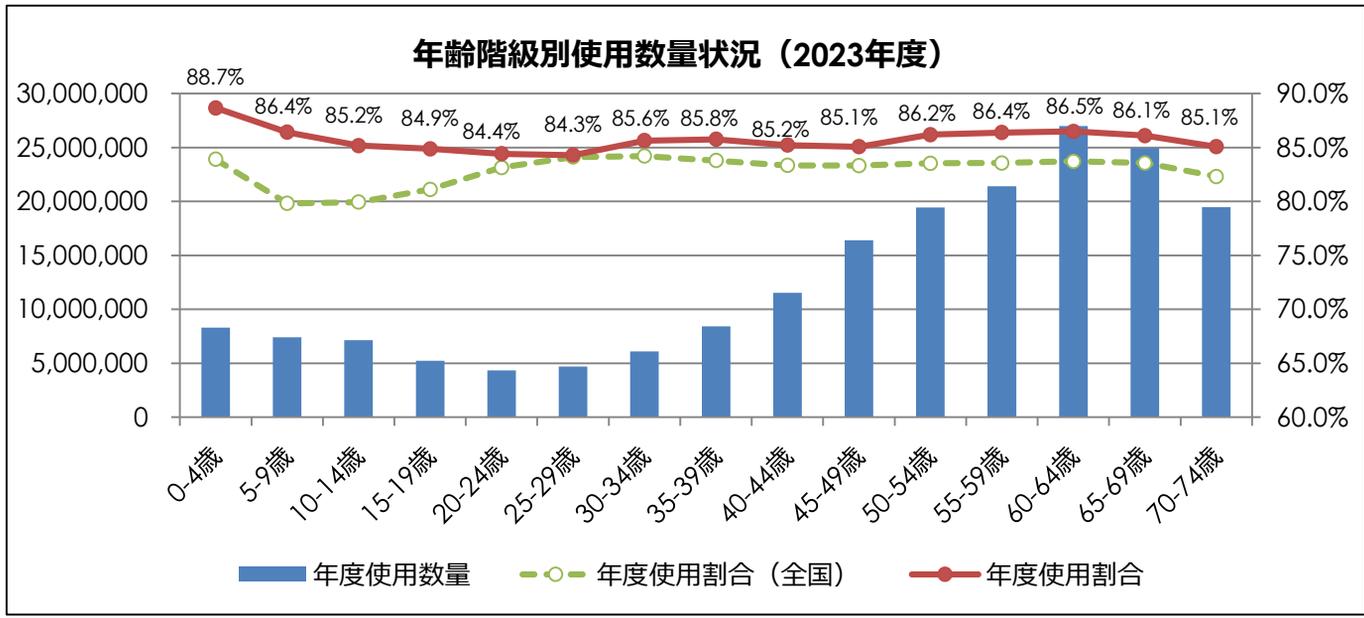
「22呼吸器用薬」の薬効分類別では、「223去たん剤」の使用数量が多く（約77%）を占めており、前年度から0.1ポイントと僅かに上昇したが、次に使用数量が多い「225気管支拡張剤」の使用割合は-5.0ポイント減少した。



# 年齢階級別・薬効分類別の使用割合

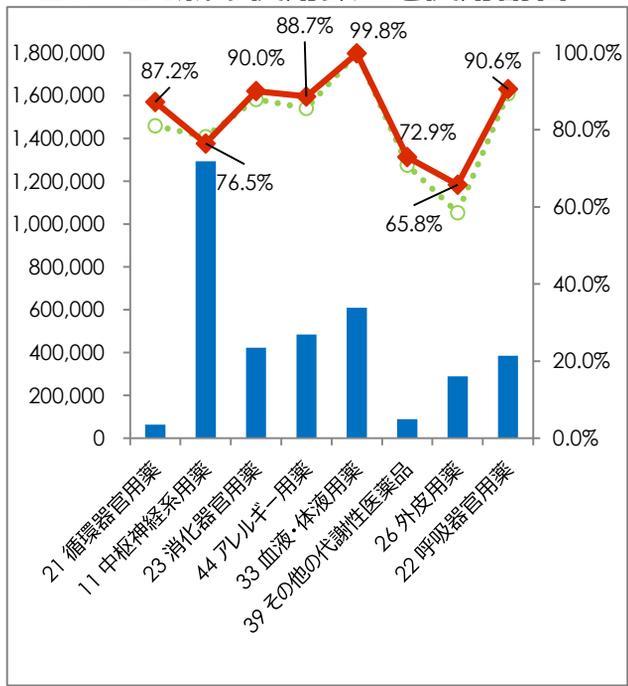
使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

宮崎支部の年齢階級別の使用数量と使用割合を確認すると、使用数量の分布状況に変わりはなく、使用割合は、引き続き全ての年齢階級で全国平均を上回っている。

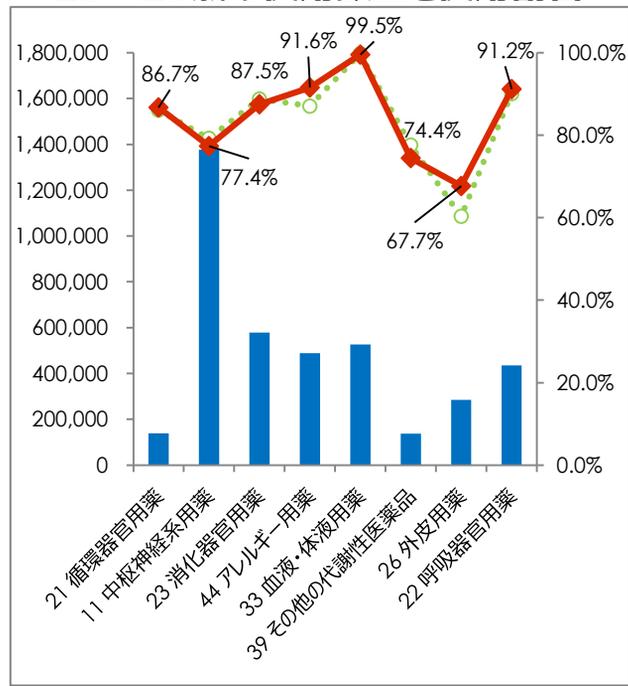


多くの年齢階級では全国平均を一定程度上回るが、20～24歳、25～29歳については使用割合は全国平均に近い割合となっており、薬効別に確認すると主要な薬効では「11中枢神経系用薬」が全国平均を下回っている事がわかる。

## 20～24歳の使用数量と使用割合



## 25～29歳の使用数量と使用割合

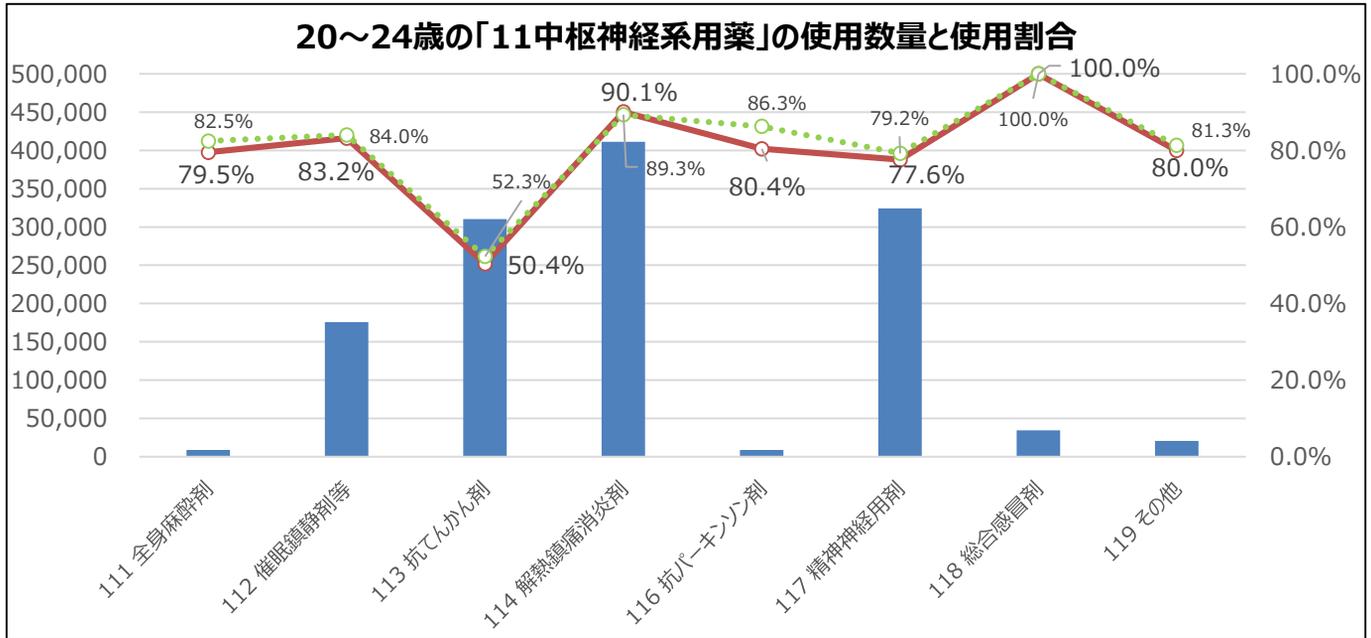


■ 使用数量    ◆ 使用割合    ● 使用割合 (全国)

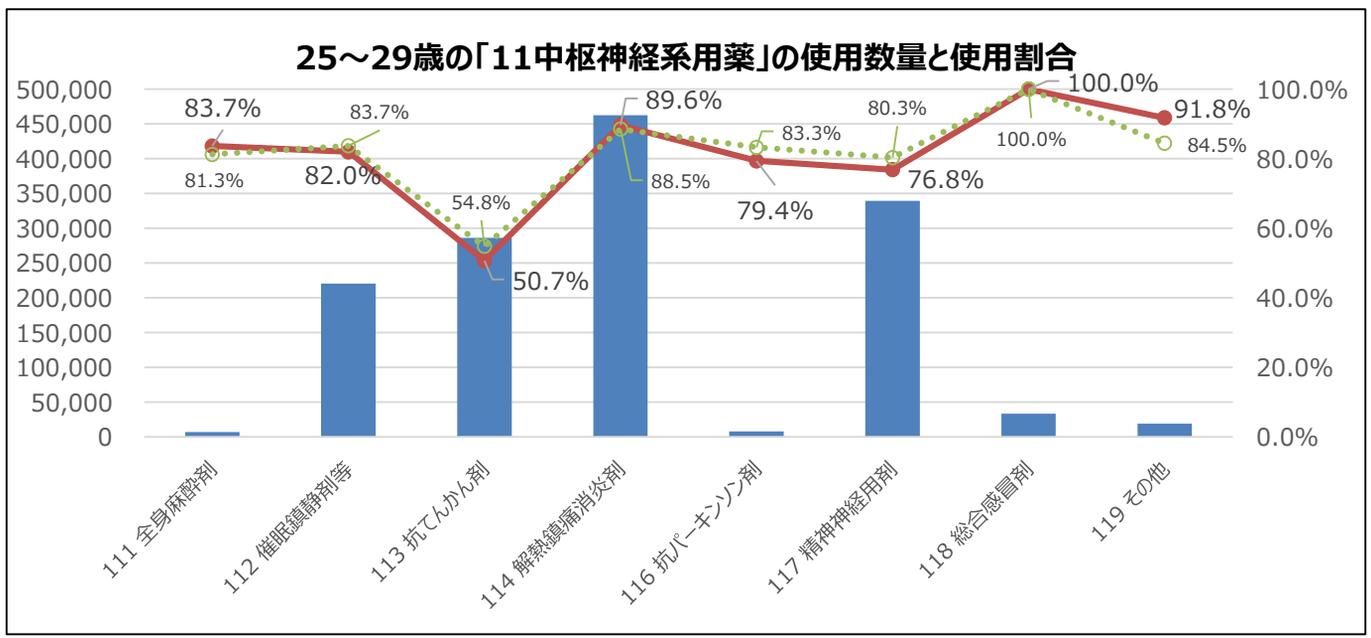
# 年齢階級別・薬効分類別の使用割合

使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

20～24歳の年齢階層で「11中枢神経系用薬」の状況を確認すると、主な薬効のうち使用数量が最も多い「114解熱鎮痛消炎剤」では全国平均を0.8ポイント上回っていた。次に使用数量の多い「117精神神経用剤」は-1.7ポイントと全国平均を下回っていたものの、前年度の-2.8ポイント下回っていた状態からは乖離が縮小した。



25～29歳の年齢階層では、「113抗てんかん剤」が-4.1ポイントと最も全国平均より低く、「117精神神経用剤」も-3.5ポイント全国平均を下回っていた。



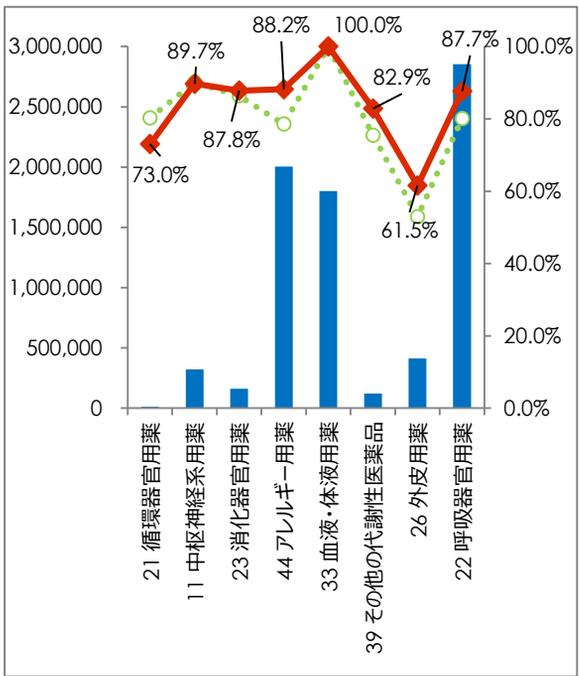
■ 使用数量    ●—● 使用割合    ●●●● 使用割合 (全国)

# 年齢階級別・薬効分類別の使用割合

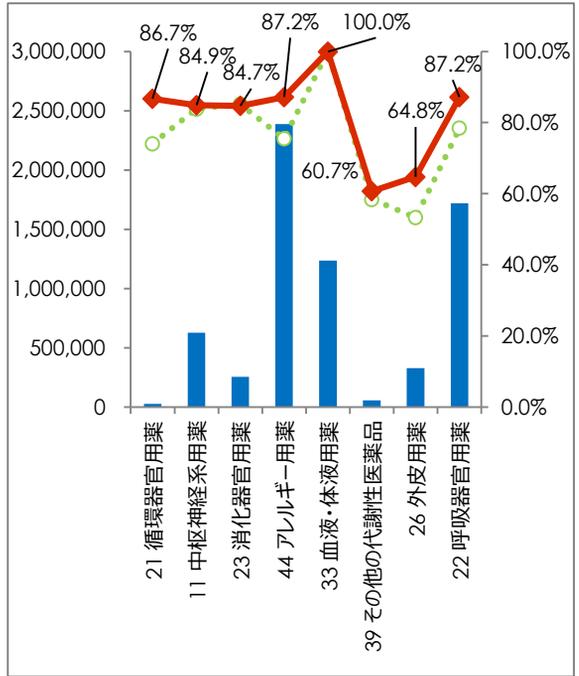
使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

■ 使用数量    ● 使用割合    ●●●● 使用割合（全国）

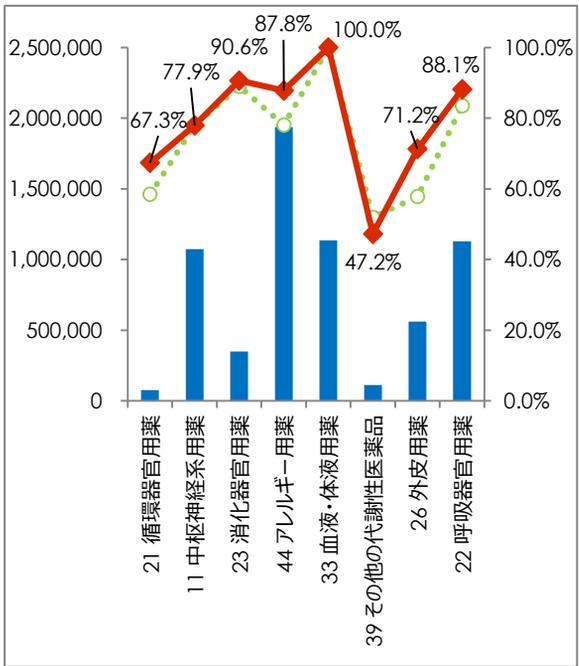
## 0～4歳の使用数量と使用割合



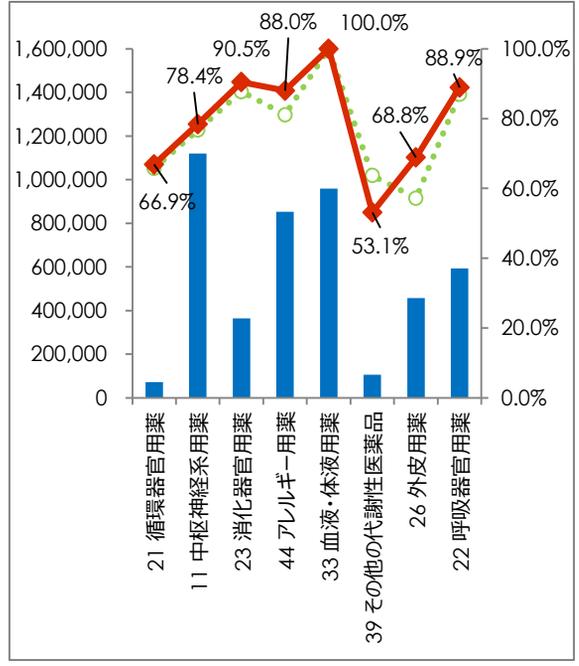
## 5～9歳の使用数量と使用割合



## 10～14歳の使用数量と使用割合



## 15～19歳の使用数量と使用割合

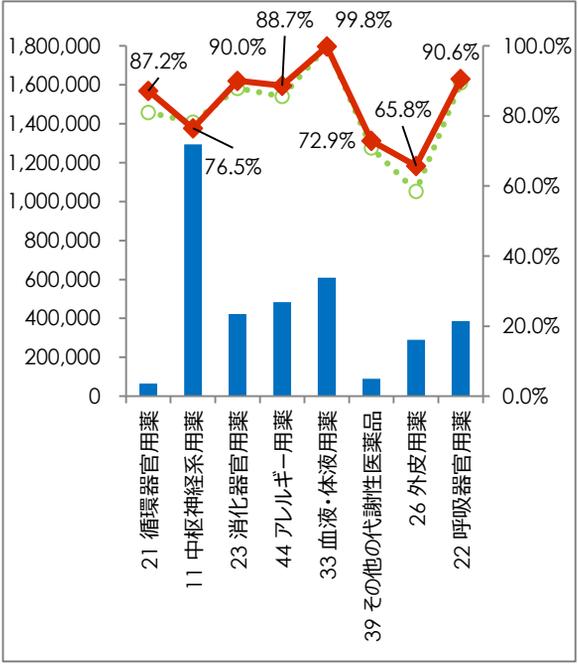


# 年齢階級別・薬効分類別の使用割合

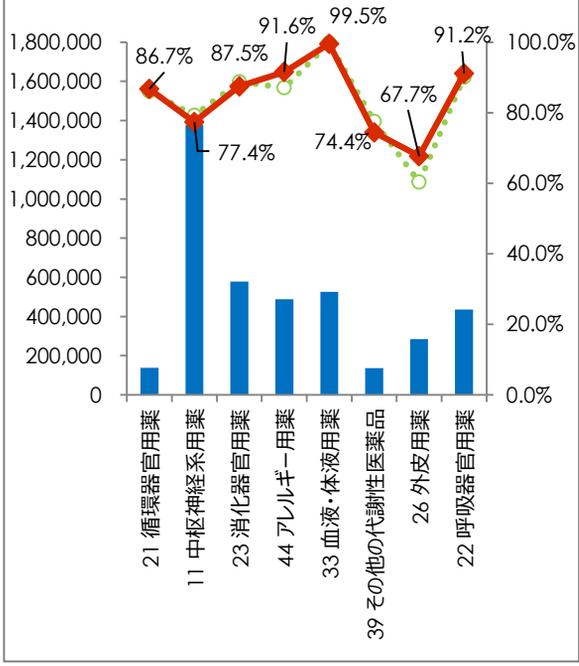
使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

■ 使用数量    ● 使用割合    ○ 使用割合（全国）

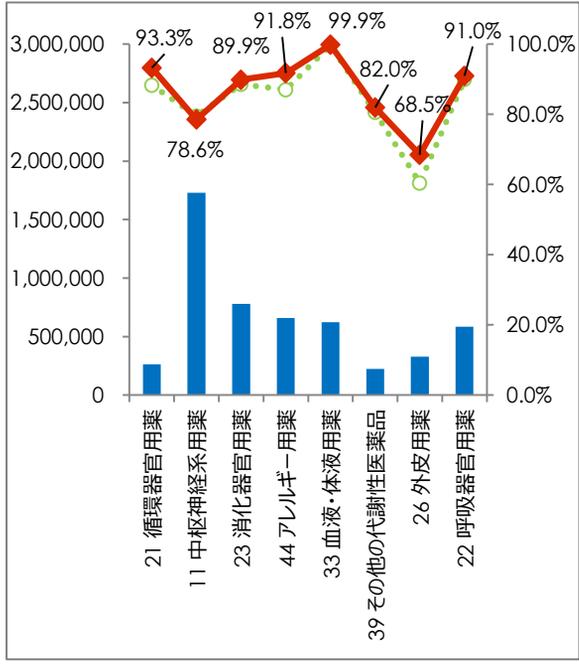
## 20～24歳の使用数量と使用割合<再掲>



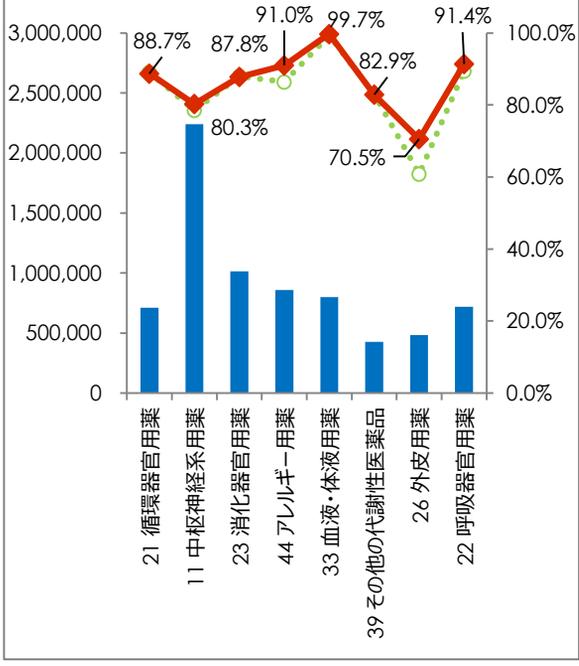
## 25～29歳の使用数量と使用割合<再掲>



## 30～34歳の使用数量と使用割合



## 35～39歳の使用数量と使用割合

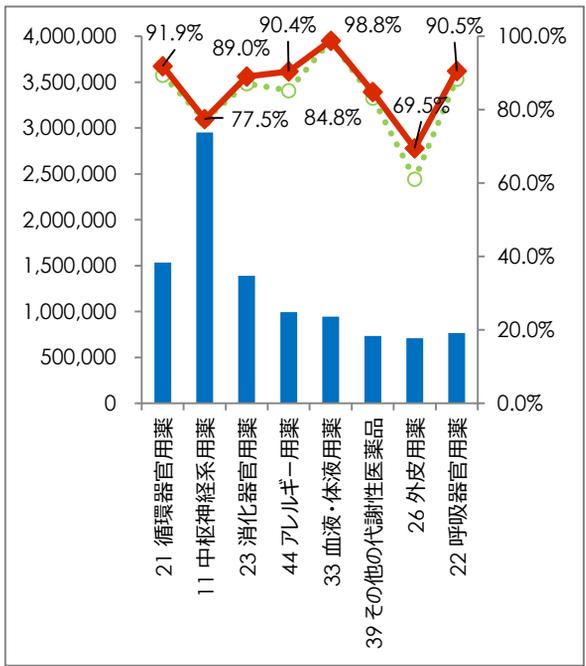


# 年齢階級別・薬効分類別の使用割合

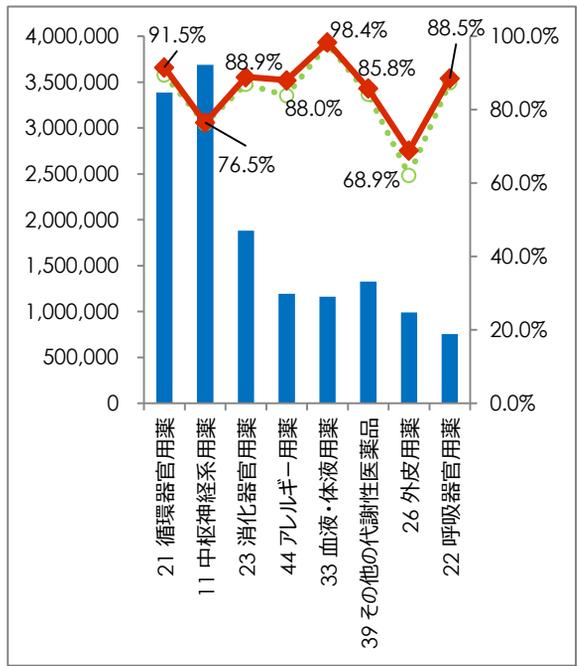
使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

■ 使用数量    ● 使用割合    ●●●● 使用割合（全国）

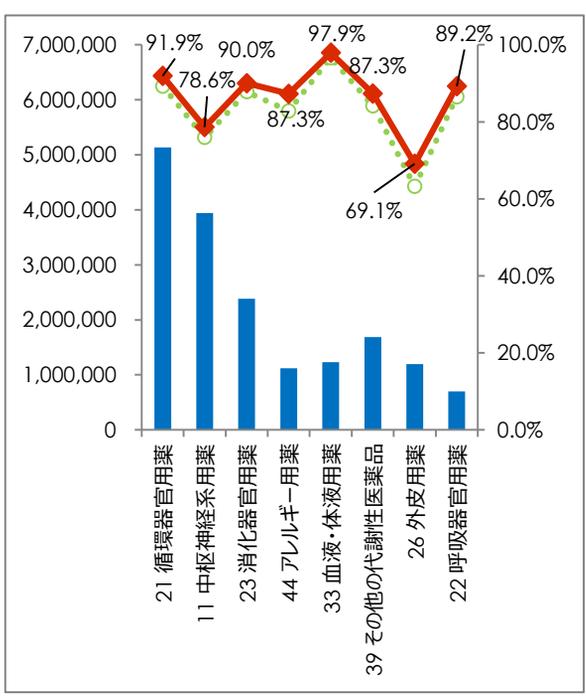
## 40～44歳の使用数量と使用割合



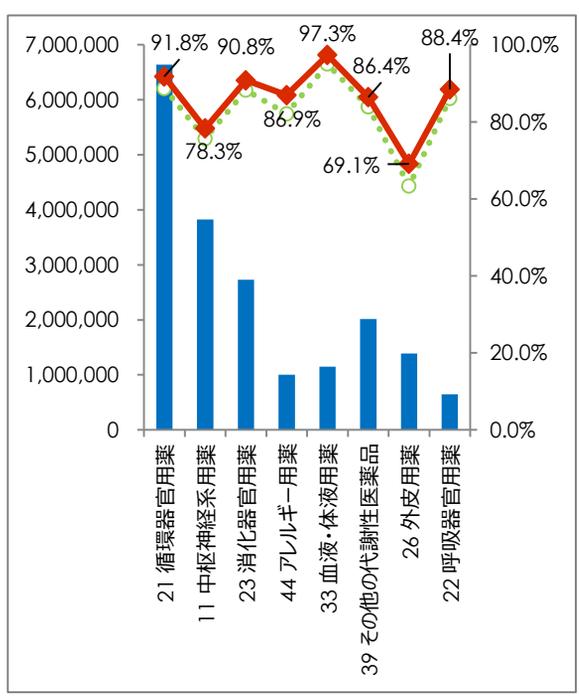
## 45～49歳の使用数量と使用割合



## 50～54歳の使用数量と使用割合



## 55～59歳の使用数量と使用割合

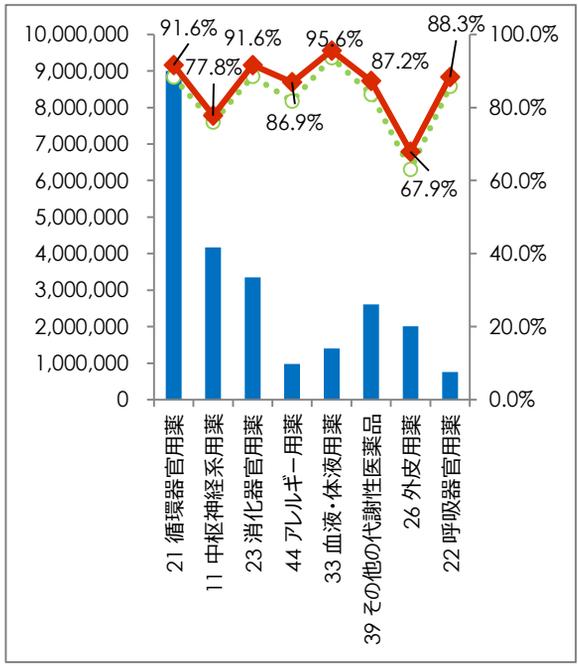


# 年齢階級別・薬効分類別の使用割合

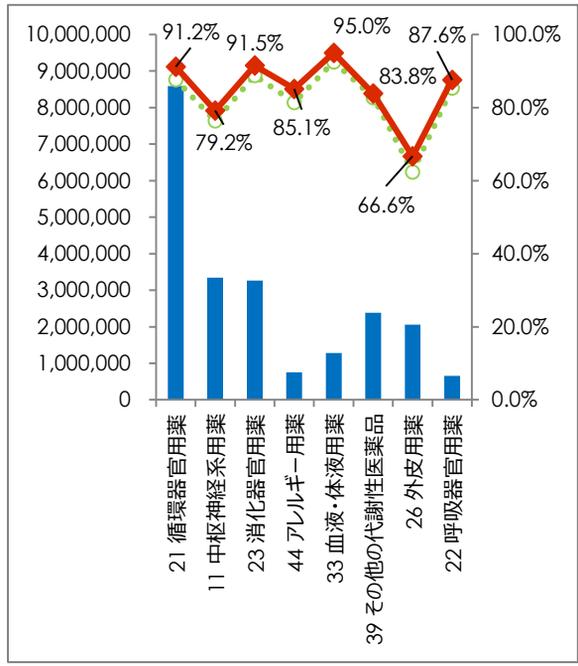
使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

■ 使用数量    ● 使用割合    ●●● 使用割合（全国）

## 60～64歳の使用数量と使用割合



## 65～69歳の使用数量と使用割合



## 70～74歳の使用数量と使用割合

